



# 多職種協働の推進方針

当院は、リハビリテーション病院として、患者さまの病気や障害だけでなく、生活機能、認知機能、栄養状態、服薬状況、心理面、家族背景、住環境、退院後の生活までを総合的に支援することを重視しています。そのため、医師、看護師、リハビリテーション専門職、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、介護職、事務職員等が連携し、多職種協働による医療・ケアを推進しています。

入院時から退院までの各段階において、多職種カンファレンスを実施し、患者さまの状態、リハビリテーションの進捗、ADL、FIM、嚥下機能、栄養状態、服薬状況、転倒リスク、認知機能、退院支援上の課題等を共有しています。そのうえで、患者さま・ご家族の意向を踏まえ、治療方針、リハビリテーション目標、ケア内容、退院支援の方向性を検討します。

多職種協働においては、各職種が専門的な視点から意見を出し合い、互いの役割を尊重しながら、患者さまにとって最善の支援を考えることを大切にしています。必要に応じて、かかりつけ医、地域医療機関、ケアマネジャー、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所サービス、介護施設、福祉用具事業所、行政機関等とも連携し、切れ目のない支援を行います。

また、日々の診療・ケアの中で生じた課題については、病棟カンファレンスや各種委員会等で共有し、業務改善や医療の質向上につなげています。多職種が同じ目標を共有し、協力して取り組むことで、患者さまの生活機能の回復、在宅復帰、生活の質の向上を支援します。

当院は、職種間の垣根を越えた対話と協働を大切にし、患者さま中心の医療・ケアを実践していきます。